

令和5年度第2回京丹波町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 令和6年3月18日(月) 午後1時30分～午後3時45分
- 2 開催場所 京丹波町役場 防災会議室
- 3 出席者 (1) 構成員 7名
 畠中源一町長、松本和久教育長、片山幸男教育長職務代理者
 津田勝二委員、谷文絵委員、金子和子委員、山根里香委員
(2) 事務局 7名
 ・総務課
 田中課長、徳島課長補佐、片山総務係長
 ・教育委員会
 堂本教育次長、宇野学校教育課長、村田社会教育課長
 津田教育振興室指導主事
- 4 傍聴者 なし
- 5 会議の概要
 - (1) 開会あいさつ
 畠中町長が、会議開会にあたってのあいさつを行った。
 - (2) 報告事項
 徳島課長補佐が、令和6年度京丹波町当初予算の概要を説明した。
 - (3) 協議事項
 - ア 令和5年度教育委員会事業報告について
 令和5年度における教育委員会の取り組みについて報告した。
 学校教育について(宇野学校教育課長説明)
 幼児教育について(津田幼児教育指導主事説明)
 社会教育について(村田社会教育課長説明)
 - イ 第2期京丹波町教育振興基本計画について
 堂本教育次長が、第2期京丹波町教育振興基本計画の最終案の内容について説明した。

ウ 質疑、意見交換

構成員により、令和5年度教育委員会事業、第2期京丹波町教育振興基本計画について、質疑、意見交換を行った。概要は以下のとおり。

【委員】教育振興基本計画については、パブリックコメントやこれまでの会議での意見が反映されており、素晴らしいものができたと思う。第1期計画の策定以降、教育情勢だけでなく、社会的な状況が変化しており、それらも捉えて第2期計画に反映されていると感じる。一昨年から取り組まれているわくわくサイエンスについては、これまで自然科学に関する取り組みがほとんどなかった中で、子どもたちの興味関心を引くという点で、大きく前進したと思うので、今後も継続していただきたい。文化面においては、これまでから多様な分野の人々が関わりをもって取り組まれているが、城育プロジェクトにより、これまであまり目を向けられなかった町内の城に視点が当てられており、興味関心を高めるものだと思う。最近、和知小学校で珍しい植物が見つかったが、町内の他の場所でもたくさんあるのではないかと思う。水辺や水の中の生物の観賞などにも視点を当てて、取り組みを進めていただければと思う。

【委員】学校の部活動の地域移行については、中々難しい課題であると思う。ある講演会で、先生の働き方の改善だけでなく、人口の減少に対してどう対応していくのが求められていると話されていた。京丹波町の中学校を見ても、生徒の減少によりクラブ活動を維持していくことが難しいと感じる。共同部活動や生徒の送迎などについて、今年度の取り組み状況と、来年度の計画等について教えてほしい。

【教育次長】蒲生野中学校と瑞穂中学校の男女ホッケー部で取り組んでおり、それぞれの顧問が指導を行っている。他の部については、例えば週に1回、町内中学生が集まって一緒に部活動を行う方法もあるが、現時点ではほとんど進んでいない状況である。一時期は、部活動の在り方イコール地域移行と言われていたが、最近、文部科学省の考え方が少し変わってきているところもあり、来年度の取り組みについては定まっていない。ただし、野球などのメジャースポーツであっても、一つの中学校では部員が不足している現状から、合同の部活動について早期に検討していく必要がある。そのためには、三中学校間での生徒の移動が必要になるため、三地域に送迎用の公用車配置を進めている。現時点では、本格的な取り組みが進んでいないが、合同部活動や、季節により種目を変えるシーズン制の部活動の実施について、検討していかなければならない。教育委員の皆さまからも、総合教育会議や定例会の場において、部活動の進め方、地域移行についてご意見をいただきたい。

【委員】昨年4月から図書館となったことで、図書館スタッフの皆さんの熱心な取り組みにより、図書を手に取りやすい環境ができていると感じる。これまでは、他の市町では当たり前だったことが、京丹波町でも進められており、今後

は、こども園や学校にも出向いて、普段はあまり本を読まない子どもたちとの関わりを持っていただければと思う。またこれまで、京丹波町に当たり前のようであった文化的なものや山城について詳しく調べてあり、町民の皆さんも関心を持たれると思う。自然が豊かな町であり、GREEN GREENのキーワードと併せて、実際に森に入って歩いたり、自然の草木に触れ合う機会があれば良いと思う。大人が行動し、関わっていかないと上辺だけになってしまうので、町民大学などで取り組んでいただければと思う。毎年、ふるさと人形展が開催されているが、教育委員会の主催であれば、もっと教育的な展示方法であったり、期間中に専門的知識を持つ方を招いて説明いただくなどと提案してきた。今回、広報京丹波で人形の家が取り上げられており、このような情報を現地でも発信してほしい。

【委員】私は、すべてはあいさつと笑顔で始まると思っており、教育振興基本計画において、目指す子ども象が具体的に示されていることが良かった。幼児期の遊びを通じて心と体を育み、その後の小学校へとつながると思う。幼児期の友だちのつながりと親同士のつながりが土台となり、小学校で困難やトラブルが起こった時でも、早期解決につながると思う。子どもたちが楽しく学校に通うことは、親も安心して仕事に行けるということと大切な友達がいるということ、夢中になれる部活があること、寄り添っていただける先生がいるということだと思う。親として、改めて、子どもの個性と向き合って愛情を注いでいきたいと感じた。

【委員】教育振興基本計画のパブリックコメントで、たくさんの意見をいただいております。関心を持っておられると感じた。計画の8ページの乳幼児期からの教育の充実の項目で、記載の内容は素晴らしいものであるが、乳幼児期の様々な体験が土台となり、その後の教育につながるので、二つ目にある保育・教育内容の充実の記載を一つ目に掲げれば、より分かり易いのではないかと思います。最近、子どもの尿から農薬の成分が検出されたとの報道があったが、京丹波町の特色ある学校給食として、町内で採れた新鮮な野菜を使用する取り組みを進めれば良いと思う。色々な機会が多くの人と関わっているが、町の取り組みに関心がなかったり、情報すら知らない方が多いと感じる。町民が参加しやすい取り組みや開催方法を検討いただくとともに、情報発信の仕方も工夫いただければと思う。

【教育長】本日の会議は、町長、教育委員の皆さんに、令和5年度の取り組みを振り返り、到達点を確認していただき、それを踏まえて第2期の教育振興基本計画の実践につなげていく構成で、良い組み立てであったと思う。町外の多くの教育関係者から、京丹波町について異口同音に、最近の京丹波町は元気があるとの感想を聞く。色々なことに新基軸でチャレンジしていると言われている。令和5年度の取り組みを見ても、新たな課題に向かって積極的に取り組みことがベースとなっており、これは、町長のまちづくりの基本的な理念である。京丹波町の教育の大きな課題は、自己肯定感が低いことであると言いつけてき

たが、わたしの中では少しずつ改善されつつあると感じる。教育長に就任した際に、やるべきことを提案したが、色々な方から、京丹波町の限られた資源や規模間などの諸条件の中では難しいのではないかと言われてきた。図書館の議論の中でも同様であった。それを、与えられた条件の中で可能性をいかに見出すか、とりあえずやってみるとして進めてきた。わくわくサイエンスについても、実際にやってみれば、多くの方から協力をいただいた。これまでの教育委員会の取り組みの中で、子どもを取り巻く我々大人が、京丹波町の良さに、どれだけ気づいて自信を持つか、それでとりあえずやってみることを繰り返してきた。学校での探究的な学びなどでも同様であり、その繰り返しの中で、子どもが、出来そうだし、出来たし、もう少しやってみようと思っ取り組んでいる。今、京丹波町の学校教育、社会教育、図書館、文化財の取り組みに加えて、町民大学においても同様に取り組んでいる。町民全体が、自らの良さに気づいて、それを実現するために、どこまで自己肯定感を高めていけるか、その視点で多くの方から意見をいただき、地に足がついた第2期の教育振興基本計画にまとめることができたと感じている。京丹波町の教育が前向きに進めていけるのは、町全体が、同じ視点で教育を理解していただいているからであり、教育と子育てに関しては、財源等難しい面がある中で、京都でトップクラス、全国でもトップクラスにチャレンジしていくのが第2期の基本計画であると思う。教育委員の皆さんにも、色々と協力をお願いしたい。

【町 長】 普段は一緒になることが少ない教育委員の皆さんから、多様な意見を伺うことができた、大変意義のある会議であった。私自身が町長に就任させていただいた時に、町の活性化を進めていくためには、京丹波町に見合ったやり方で、まずは足元にある良いものを活かした町づくりを進めたいと思い、取り組んできた。若い方は賑やかで働く場所がたくさんある都市部に憧れるが、そういう表面的な事だけで世が成り立っているのか、もっと根源的なものを考えて、それを町民の皆さま、子どもたちに伝えていくことが、われわれ行政の役割であると思う。今住んでいるこの町の魅力やすばらしさを知らしめることが大切である。町の魅力を深掘りすることであり、それが町民大学の取り組みであり、今年度は1, 100人を超える方が参加されており、皆、町のことを知りたいと思っているんだと感じた。今、京丹波町は教育の花盛りと思っており、学校教育然り、社会教育然り、このような中で、学校において探究学習が盛んになってきている。2年目の今年度は、1年目に比べて格段にプレゼンテーション能力が向上しており、子どもたちは自信を持って発表している。素晴らしいことである。確実に自己肯定感の向上につながっており嬉しく思う。みんな協力し合いながら目標に到達していく能力を身につけた子たちは、必ず認知能力、学習面にも生かし、学力の向上につなげていけると思う。都市部の子どもたちにも引けをとらず、堂々と張り合っ意見を言えるよう成長していけると思う。瑞穂小学校で10年後の京丹波町を考える取り組みが行われた中

で、町内の和菓子事業者と連携したものがあつた。饅頭の中にチョコレートが入っている斬新なアイデアで、子どもの発想の豊かさに驚いた。また、あるアンケートで子どもから、こども園と小学校、中学校を同じ敷地に建てるという意見があつた。その発想に驚いたが、子どもたちが、幼児から中学生までつながっていけばと考へていることが素晴らしいことであり、子どもたちが考へていることをもっと知りたふと思つた。私自身も子どもの中での世代間交流を進めるべきだと思つている。国のこども家庭庁では、子どもを真ん中にした社会づくりとして、子どもを一人の人格者と見立てて意見をしっかりと聞く方針を示している。京丹波町においても、子どもの意見を一つでも多く取り入れた教育行政を進めていただければありがたい。

【教育次長】それぞれ貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。本町の教育振興基本計画は、京都府の教育振興プランを土台としており、そこから皆さまの意見を取り入れて作成している。今後も、色々な意見を取り入れていくことが可能であり、本日いただいた色々な意見についても、毎年作成している教育の指針や教育振興プランにおいて反映させて、皆さまに分かり易く示していきたいと考へている。

(4) 閉会あいさつ

松本教育長が、閉会あいさつを行った。

[閉会：午後3時45分]